

平成30年度 県立家島高等学校 学校評価

分野(I 学校全体・組織・運営 II 学習指導 III 生徒指導 IV 進路指導 V 地域連携・PTA)

評価 (A④ よくできた B③ できた C② あまりできなかった D① できなかった)

分掌	分野	評価項目・達成目標	成果指標 (具体的な達成目標)	評価	振り返り・課題	改善策	30年度 中間
総務	I	学校行事を見直し、精選し、活性化させる。	行事検討委員会と連携し、学校行事を改善し、生徒の満足度を高める。	3.4 B	行事の改善は委員会での検討を経てかなり行えた。また球技大会の回数等改善できるものもある。また、生徒の満足度調査が行えていない。	今後も行事検討委員会と連携して考えていく。	3.2 B
	I, V	防災・学校安全教育の充実を図る。	避難訓練を年2回(7月・10月)実施し、地域の安全を守る人材を育てるために、積極的に防災・学校安全に取り組む。	3.9 A	避難訓練を年2回(7月・10月)、防災ジュニアリーダー合宿など充実した活動ができた。継続していきたい。	計画通り実施できている。新たに避難所運営の訓練を実施し、防災体制、意識の向上に努める。	3.4 B
	V	地域の関係機関をはじめ、PTA・同窓会・地域の支援協議会等との連携を強化し、魅力ある学校づくりを推進する。	学校行事をPTAや地域と連携して運営するとともに、地域行事への生徒・教職員・保護者の積極的参加を促す。	3.6 A	PTA、学校間の連携はよくできたと思うが、地域との連携がもっとできたと思う。	あいさつ運動への参加・協力をするなど地域とつながっていく。	3.8 A
教務	I	生徒の実情や希望、学力に合うように教育課程を改善する。	生徒の学力や希望進路にあった教育課程、少人数授業の編成を考える。	3.1 B	1年の類型変更など対応することができた。	習熟別、TT形式を組み合わせ、少人数授業の活性化をはかる。	3.0 B
	II	進学、就職それぞれの進路目標に応じた確かな学力を身につけさせるために、類型ごとに授業内容を見直す。	学校全体で各学期ごとの成績不振科目数0を目指し、延べ数で10個未満にする。	2.4 C	1学年の2学期における成績不振科目を減らすことができていない。	提出物の徹底を図るところから始める。補習は希望者に対し個別に対応する現状を継続する。	2.4 C
	II, III	学年・生徒指導部と連携しながら、生活習慣の見直しを図り、遅刻・欠席を減少させる。	遅刻・欠席の数を、それぞれ月ごとに延べ数で20回以内にすることを目標とする。	2.4 C	遅刻、早退が2学期から増え、3学期もその傾向が止まらなかった。	生徒指導部と連携を取り、声かけをして、少しでも減らしていく。	2.3 C
	II, IV	進路指導部と連携しながら、長期休業中の補習および模擬試験を計画的に実施する。	補習と模擬試験への参加者を学年の半数以上にする。	2.3 C	今年度から長期休業中の補習を夏季だけではなく、冬季にも実施した。また、模擬試験は各学期に1回ずつ実施することができた。しかし、意欲的に取り組んでいない生徒がいた。	進路指導部・学年と連携して、補習や模擬試験が進路実現に繋がるということを伝えていく。	2.2 C

生徒指導	I	いじめ認知を強化し、生活環境の正常化を図る。	年間5回の「生活実態調査」を実施するとともに、担任と協力をして生活環境や人間関係を整える。	3.2 B	生徒が自ら問題解決できるような力を育みたい。	生活調査（いじめ調査）した内容をもっと活用する。	3.1 B
	I, II	授業態度を正し、学ぶ姿勢を習慣化する。	空き時間の教師が授業教室を巡回し、必要に応じて声かけを行い怠学行為を軽減させる。	2.5 B	徐々に改善してきているが、満足できる状況ではない。	授業担当外の教師が同室するなど試みたが、根本的な解決には至っていない。	2.5 B
	I, III	交通安全に係る規範意識を高める指導をする。	年間1回以上の「交通安全講話」を実施する。	3.5 A	交通マナーは改善してきている。	来年度も考え・感じる交通安全教室を開く。	2.9 B
	I, IV	「挨拶、返事、報告、連絡、相談、お礼、お詫び」を実践する。	左記に記した言葉を、1年間で習慣化する。	2.7 B	徐々に改善してきており、校外からの評価は良くなってきているようだが、校内での挨拶等不十分な所は多い。	職員室に生徒が入ってこれる環境をもっと作れば、教師との関係性の向上、学習意欲、言葉遣いや態度を身につけさせることができるのではないかと。それにより校内での良好なコミュニケーションがとれるように促す。	2.6 B
	I, III	地域行事やボランティア活動に積極的に参加する。	募金活動と地域清掃を合わせて5回以上実施し、奉仕意欲・自己有用感・自尊感情・ふるさと意識等の高揚を図り、地域を担うリーダーを養成する。	3.7 A	計画では5回以上機会を設けたが、天候不順により、実際には行っていない。いつも全校生に募集をかけて進めたが、やはり特定の生徒に偏る傾向があり、生徒全員がボランティア部であるという認識に乏しい。	よく参加する生徒が核となって他の生徒に呼びかけていく集団作りを目指す。代替となる日を設定して行う。全校生で取り組めるボランティアの機会を増やしていきたい。	3.3 B
進路指導	I, IV	3学年全員の希望進路を実現する。	進路未決定者を0人にする。	3.5 A	未決定者1名。	専門学校への進学が決まっていた生徒が、家庭の事情により入学辞退したことによる。	2.9 B
	I, IV	生徒が主体的に進路選択できるようになるための、3年間を見通した進路指導計画を確立して実行する。	進路行事は年間3回以上、進路面談は定期的の実施し、2年生2学期頃には進路希望を決定できるようにする。	3.1 B	1年間・3年間を見通した体系的な指導ができていなかった。	進路行事を精選し、模試計画もしっかりした、綿密な年間計画を作成する。	3.0 B
保健	I	自身の健康に関心を持ち、主体的に健康な生活を送ることができる心と体を育む。	個々に応じた指導や学年・他部署・専門職との連携を密にし、毎回同様の理由での来室や頻回来室を減少させる。	3.1 B	連携を密にとることはできた。生徒の現状、背景により、一時的な利用で落ち着く生徒とそうでない生徒がいる。生徒に応じた対応を今後も検討して行う。	引き続き、担任からHRでの連絡を徹底。	2.9 B
	I	学校安全に対する意識を高め、緊急時対応の充実を図る。	年度初めの救急体制の周知徹底と、職員・生徒対象の救急講習会の実施、学期ごとに「学校の安全に関する調査」を行い、安全管理・安全教育につなげる。	3.4 B	計画していたことは、ほぼ行うことができた。	教員対象のAED講習ではシュミレーションを取り入れるなど工夫したい。	3.0 B
	I	保健委員の活動を活性化する。	保健行事では、生徒の中心となって活動できる場を設ける。また、保健だよりに保健委員のコーナーを設け、健康情報を発信できる場を設ける。	3.5 A	保健行事での活動、保健だよりの作成やポスター作成等は行えた。	継続して行えるよう委員の生徒への声かけを頻繁に行う。	3.2 B

図書	I	図書委員長を中心に、図書委員全員で図書室を主体的に運営する。	図書の貸し出しや図書便り(BOOKMARK)の月1回の発行を図書委員が行う。	2.6 B	下級生ほど委員会活動に消極的であり、3年から1年への連絡がうまくできなかった。	図書便りを月1回発行できるように、委員会を定期的に開催する。	2.4 C
	I	図書室の利用を活性化する。	図書室の利用生徒数を昨年度より増やし、年間貸出総冊数が100冊以上になるようにする。	2.2 C	2年生の「朝活」によって利用者数が増加した。	自習室としての個別ブースを設けて長期休業中の利用を促すなどして、図書室の利用頻度を高める。新刊を中心として書籍を大幅に購入する。	2.0 C
	I	図書委員全員で書架の整理を行い、利用しやすい図書室にする。	書架の整理を完了させる。	2.8 B	3年生を中心に図書の整理を行った。	図書委員の役割分担をして、今後も継続的に書架の整理を進める。	2.4 C
人権	I	生徒の人権尊重の意識を高める。	人権LHRを各学年で年間を通じて3回実施する。	2.7 B	講演会を中心に展開し、年間を通じて3回実施できた。	もっと年度当初に1年間を見通した計画を作成する。	2.4 C
	I	生徒の秘密や人権に配慮した教育相談を実施する。	学年は生徒と学期に1回以上面談し、学校全体ではキャンパスカウンセラーと連携した教育相談を月に1回行う。	3.5 A	教育相談は計画的に実施できた。	養護教諭と連携をとって、秘密保持に留意しながら生徒からよく話を聞いていく。	3.0 B
	I	校外の研修会に参加し、また校内研修会を実施することで教職員の人権意識を高める。	校外で行われる研修会に参加し、校内では職員対象の研修会を1回以上実施する。	2.8 B	校外の研修会には全て参加したが、その研修内容を教職員全体に伝えることができなかった。	分掌が人権教育以外の職員にも講師をお願いして、職員研修を実施する。	2.8 B
学年	I	自主性、積極性、責任のある行動をとる主体を育てる。	学校行事に参加するだけでなく、自分たちで考えて、運営できるようにする。	3.1 B	自主自立の精神に欠け、積極性が不足している生徒が多い。	教師からの指示をあえて少なくして、自分たちで考えて行事をつくる機会を増やす。	3.2 B
	I	学校行事などを活用し、学年や仲間意識を高め、互いを思いやる気持ちを育む。	行事での欠席者を0にする。	2.6 B	生徒はよく動くようになってきている。クラス内がいくつかのグループに分かれており、それがクラスの一体感の醸成を妨げている。	一人ひとりに役割を持たせるようにする。仲間意識を持つことの大切さを粘り強く訴える。	2.2 C
	I, III	時と場に応じた言葉遣いや態度を身につけさせる。	学校行事や集会時に正しい姿勢や態度を指導し、挨拶でき、敬語が使えるようにする。	2.7 B	「自らがクラス運営に積極的に関わっていく」という意識が低い生徒が多い。	敬語が必要な場面で友達のように話す特定の生徒がいる。全体的にも敬語の指導に力を入れたい。	2.6 B
	III	挨拶、校内美化に努めさせるとともに、ルール・マナーを順守させる。	毎日の清掃に真面目に取り組み、気持ちの良い挨拶ができる人物を育てる。社会人としての言葉遣いやマナーを守る。	2.9 B	高い意識を持つ性とが少しずつ増えてきた。	清掃場所を固定して責任をもたせるという案も検討する。掃除時間10分の徹底を全職員ではかる。	2.9 B
	IV	進路への意識を高め、進路実現に向けて自らが行動する主体を育てる。	オープンキャンパスや職業体験に全員が参加する。就職者・進学者とも補習に80%以上が参加し、卒業までに検定や資格を一つ以上取得する。卒業時進路未決定者を0にする。	3.2 B	進路意識が高まってきた。自分の進路に向け自学する生徒も増えた。職業体験などには全員が参加できた。35回生も22人中20人が資格を取得した。進路ツアーなど生徒は前向きに取り組んでいる。	検定、資格の積極的取得を働きかけ、さらに難関な資格取得を目指す。自学する場所や時間を設定して、いい流れを後押しする。	2.8 B

3.0

2.8